

音楽と数学、一見すると二つの異なる世界に見えるが、近藤さんにとってはどちらも人生の重要な要素である。音楽は家族の影響と共に、中学と高校の吹奏楽、マーチングバンドでの活動を通して深まった。特にマーチングバンドでは、演奏だけでなく身体性も求められ、その経験が後の人生にも影響を与えている。数学への興味は、音楽での「頂点を目指す」思考から自然と生まれた。音楽での成功を目指す過程で、自己啓発や自己成長の重要性に気づき、それが数学という別の領域での挑戦に繋がった。数学は論理的思考や問題解決能力を鍛える場となり、それがまた音楽に対する深い理解にも寄与している。このように、近藤さんの人生は音楽と数学という seemingly 対照的な二つの要素が絶妙に絡み合っている。それぞれが近藤さん自身の成長や人生観に影響を与え、一方でその影響がまた他方にフィードバックされるという、相互作用の中で独自の人生を歩んでいく。それはまるで複雑な楽曲



こういう時代もあった

や数学的モデルのように、単純な要素の上に成り立っている複雑な構造を持つ。そしてその中で、近藤さんは自身自身の「頂点」を目指し続けている。ケンジさんの人生は、音楽、数学、哲学、そしてスピリチュアルな要素が複雑に絡み合っている一種の多層的な楽曲のようです。初めはスピリチュアルな要素に興味を持ち、オーラや自己暗示、引き寄せの法則に触れていました。しかし、その後、哲学と数学に目を向けるようになり、特にゲーデルの不完全性定理に触れたことが、論理だけでは捉えきれない何かが存在するという認識を深めました。この多様な興味は、ケンジさんが「平等になる」音楽の世界とも繋がっています。音楽には論理も感情も、そしてスピリチュアルな要素も共存する。それは言語化しきれない微妙な感覚や直感、センスに依存する部分が多い。このような多面性が、ケンジさん自身の多様な興味と重なっているように思えます。そして、その全てが現在のケンジさんを形作っています。論理的な思考と感性、直感とい